

3 健康長寿医療センター（仮称）の診療・研究体制

健康長寿医療センター（仮称）の機能を十分に発揮するため、診療・研究体制を、以下のように構築する

（1）診療体制の基本的考え方

（総合診療体制の確保）

高齢者の医療ニーズに的確に応えるとともに、多臓器疾患や合併症など高齢者の特性に対応した全人的な医療が提供できる診療体制とする。

また、都民にとってわかりやすく受診しやすい診療体制を目指すとともに、地域の医療機関との連携も図っていく。

（全診療科における入院診療の実施）

外来において入院が必要と判断した患者に対し、適切な入院治療を行い、また、地域の連携医からの紹介に応えられるよう、原則として全診療科において入院診療を実施する。

（急性期医療の充実）

急性期医療のより一層の充実を図るため、急性期対応の専用病床の整備も含め、今後検討していく。

（先端的医療実施体制の整備）

再生医療やオーダーメイド医療等その時々に応じた先端的医療を実施するため、関係する診療科やコメディカル各部門がチーム医療を行う体制を構築するなど、健康長寿医療センター（仮称）全体での先端的医療の実施体制を整備する。

（救急医療体制の充実）

365日・24時間対応の二次救急医療体制を基盤とし、在宅における急変時等、高齢者の救急患者を幅広く受け入れる。あわせて、脳卒中ネットワークの構築や、CCUネットワークによる救急患者受入れなど、機能に応じてより重篤な患者への高度な治療にも対応する。

（病床数の設定）

病床数の設定に当たっては、効率的な経営、急性期医療を目指すこ

とを前提とする。

今後、収支比率、二次保健医療圏域における患者数の動向、平均在院日数短縮による試算などを踏まえ、さらには診療科の構成、重点医療に応じた入院ベッド数のあり方、後期高齢者医療制度・後期高齢者の診療報酬体系の動向も視野に入れて継続検討を行い決定する。

(2) 重点医療

(重点医療の位置づけ)

- ① 特に高齢者医療の中心的な課題である医療、
 - ② 先導的役割を果たす必要のある医療、
 - ③ 他の病院では実施困難である医療
- について、『重点医療』として位置づける。

(重点医療の内容)

【血管病医療】

- 我が国の高齢者の死因の第2位・第3位を占める心疾患、脳血管疾患は、血管病（動脈硬化症）として包括される。これらの血管病は、糖尿病、高脂血症、高血圧症など、いわゆる生活習慣病を主要原因として発症し、要介護状態や認知症、ひいてはQOL低下の大きな原因となっている。
- このことから、糖尿病、高脂血症、高血圧症などのいわゆる生活習慣病の予防、適切な医療の実施による血管病の予防、急性期の血管病（心筋梗塞、狭心症、脳血管障害、閉塞性動脈硬化症及び糖尿病細小血管症など）発症時の急性期医療の実施、リハビリテーション、さらには在宅医療の支援に至るまで、一貫した医療の提供を目指す。

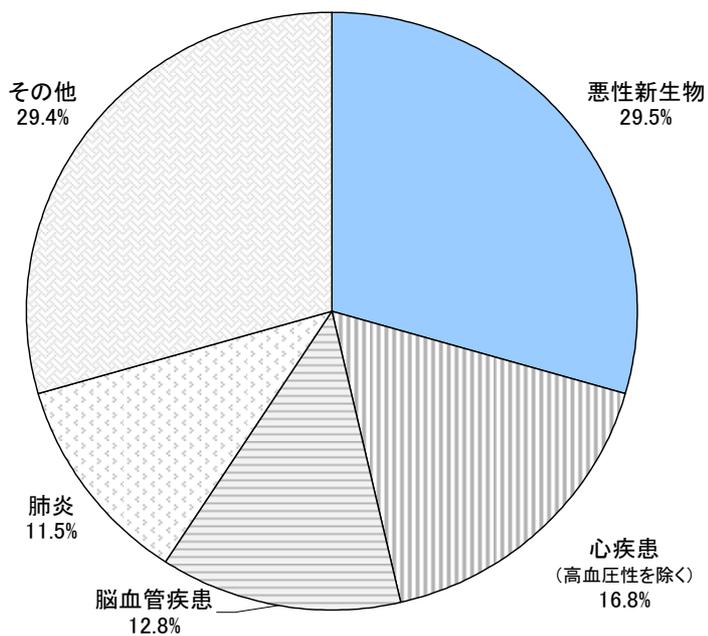
【高齢者がん医療】

- 我が国の高齢者の死因の第1位である悪性新生物(がん)は、高齢化に伴い、罹患率・死亡率が増加する傾向がある。男性では肺がん、前立腺がんの割合が増加し、女性では消化器系のがん(胃、大腸、肝臓)と肺がんの割合が増加する。
- がん疾患の標準的治療法は、主として70歳以下の症例データに基づいて確立されているが、高齢者、特に後期高齢者へのがん治療にそのまま適用することはできない。また、がん治療におけるQOLの維持向上を望む高齢者ニーズは高まっている。
- このことから、多臓器にわたる複合性疾患や認知症など的高齢者の特性を考慮し、分子標的療法、細胞移植療法、侵襲度の低い医療の実施など、QOLを重視した高齢者にやさしいがん治療を提供するとともに、高齢者への標準的治療法を確立・普及することを目指す。

【認知症医療】

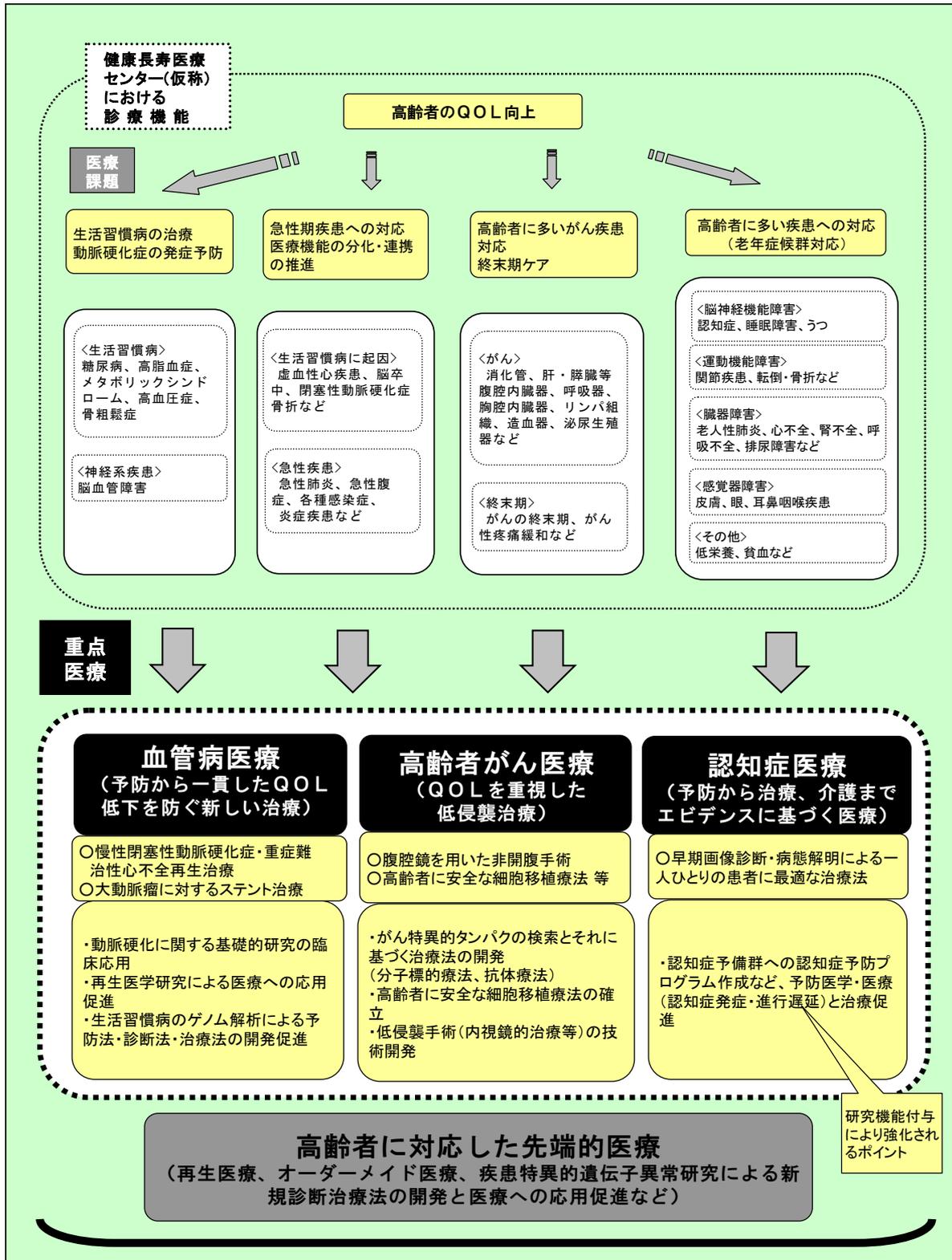
- 都内の要介護高齢者の約半数は何らかの介護支援を必要とする認知症状を持っており、認知症に関する発症予防、早期診断、症状緩和などは、今日の高齢者医療において大きな課題となっている。
- このことから、もの忘れ外来診療の実施などにより、認知症の早期発見による重症化予防を目指した医療を提供し、その普及を図るとともに、認知症の周辺症状に対する治療、介護指導、抗認知症薬の治験など新しい認知症医療技術の開発にも積極的に取り組み、認知症に関する総合的診療の提供を目指す。

【65歳以上の死亡原因】



資料：東京都福祉保健局「平成17年人口動態統計年報（確定数）」

〔健康長寿医療センター(仮称)の重点医療〕



(重点医療への対応)

○新たな診療科の設置

より高度な医療を実践するため、新たな診療科(心臓血管外科等)の設置を検討する。

○特殊外来の新設・拡充

「脳卒中外来」や「もの忘れ外来」、「化学療法・放射線治療外来」など、特定の疾患・分野を対象とした特殊外来の新設及び拡充を図り、より一層質の高い医療の提供と、患者及び地域の連携医にとって受診しやすい体制を整備する。

○各診療科の連携

重点医療に対して、関係する診療科が連携し、横断的・一体的に取り組むものとする。

○先端的医療の提供

重点医療を積極的に進めていくため、遺伝子解析に基づいて、より有効性が期待できる薬剤の開発、副作用の抑制、生活習慣病への適切な治療などオーダーメイド医療を実施するとともに、医療と研究の融合により、血管病に対する再生医療、がんに対する分子標的療法、幹細胞移植など先端的医療を実施する。

健康長寿医療センター(仮称)が提供する医療の具体例

【例1】血管病の予防及び先端的医療の実施

老人医療センターの血管病医療の実績に、新たに研究機能として血管医学研究を付加し、特に動脈硬化症の原因、予防法、治療法の開発を目指すとともに、血管再生治療などの先端的医療を実施する。

- ☆ 生活習慣病の予防段階からの一貫した血管病医療の提供
- ☆ 高齢者のQOL低下を防ぐ新しい治療の実施
- ☆ 医療費の適正化にも寄与する適切な医療の実施

